

悠久の京を訪ねて Part IV

Vol.12



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

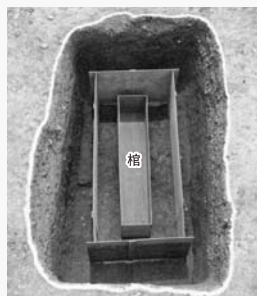
私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

平安時代の墓と副葬品

—木炭槲木棺墓と漆塗りの冠の意味するところ—

■西山古墓の発見

西山古墓は、京都と奈良の府県境に近い木津川市市坂で平成4年度の発掘調査によって見つかりました。古墓は京都盆地が広く見渡せる眺めの良い丘陵上に築かれていま



見つかった木炭槲木棺墓



鉄板の出土状況

した。西山古墓は棺の周りを木の板で囲い、その間に木炭を充填する「木炭槲木棺墓」と呼ばれる特殊な形式の墓で、21例中19例が近畿で見つかっています。

棺内には「漆紗冠」が副葬されており、近接する穴から鉄板が2枚重なった状態で出土しました。鉄板は21×31cmの薄板で、全国で数例見つかっています。いずれも墓に伴うことから、被葬者の名前などを記した墓誌または墓所を土地の神から取得する買地券とみられています。

このような鉄板は、京都市山

科区西野山古墓でも見つかっており、金銀で豪華に飾られた鏡や刀などとともに、現在、国宝に指定されています。この墓は正三位大納言坂上田村麻呂の墓と考えられています。

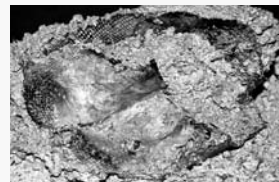
西山古墳



■葬られた人物は誰か

西山古墓の唯一の副葬品である「漆紗冠」は、粗い平織りの布状繊維を冠帽状に縫製加工し、黒漆掛けして仕上げたものです。儀式の時に着用する礼服冠の一つで、位階六位以上の方が着用を許されていました。類品は正倉院宝物にあり、平城京跡や長岡京跡などでも出土しています。

奈良時代まで貴族の墓は火葬墓が一般的でしたが、平安時代前期に一時的に「木炭槲木棺墓」が採用されます。西山古墓の被葬者は、墓誌を伴う「木炭槲木棺墓」に葬られていることから六位以上の官人または貴族であったと考えられます。数少ない平安時代の墓の貴重な出土例といえます。



出土した漆紗冠